

劉玉梅 口頭供述のまとめ：2018年12月10日
(訳注：英語原文と食い違う部分は、実録の確認に基づいています)

[拘束回数] 9回 [拘束施設の数] 10カ所以上
[法的代弁者] なし。中国では認められていない。

2000年12月31日に北京に陳情に行きました。法輪功が正しいことを告げるためでした。そこで警官に連行され殴打されました。ライトバンに乗せられ北京の看守所に連行され、名前と住所を尋ねられましたが、答えませんでした。次に用紙を渡され、書き込むように言われました。真実を書きましたが名前を書くことには躊躇しました。実名を書いたら、悪い結果をもたらされるからです。ですから名前は書きませんでした。家族間で呼ばれる名前を書きました。公式名ではないので、彼らが確認しようとしてもできませんでした。写真を撮られ、悔い改める文を書くように言われました。写真を撮られることを拒否しました。(そこで警官に「名前と住所を言わなければ、おまえの臓器はすべて摘出され、おまえの家族はおまえの遺体を見つけることができなくなるぞ」と言われました。) 威嚇の方法だと思い、何も言いませんでした。警官が言ったことです。その後、他の囚人と一緒に監房に入れられました。扉は鉄製でした。中にいた囚人に名前と収監の理由を尋ねられました。警察には名前を言わなかったことを告げたら「それは問題。これからいろいろされますよ」と言われました。

身体検査を受けました。他の人が受けたかどうかはわかりません。採血されました。10名くらいが並んでいました。両手を頭の後ろに組んでしゃがむように言われました。私は囚人ではないのでできませんと答えました。警官が来て私を蹴り、しゃがませました。立つことができませんでした。身体検査に連れて行かれました。看守所に所属する医師(女性)に採血されました。窓から、たくさんの人が何かを分析している様子が見えました。何を探しているのかはわかりませんでした。

監房から外を見ることはできませんでした。そこに送られた囚人は1日か2日で消えるから、お前も危ないと言われました。

[拘束について] (上述の体験は) 4度目の拘束でした。1999年7月20日が最初の拘束でした。その後、1999年7月23日に警官が家に来ました。それから1999年11月23日、迫害後の修煉体験交流会があったので広州に行き、そこで拉致されました。住所を言わなかったので、何らかの形で記録されたのです。

[1999年以前に法輪功からの臓器収奪を耳にしたか?] いいえ。

当時は、法輪功学習者は囚人ではありませんでした。多くの人々が法輪功を修めていました。その後(迫害後)は、法輪功学習者を収監するために、刑務所が囚人を釈放していました。

[江沢民訴訟について] 2002年9月、人権活動家一人と法輪功学習者二人が試みしました。国家主席だったので訴訟を起こす手段はなく、私たちは過酷な扱いを受けました。2002年4月に私の妹は拷問死し、私は何度も拉致されました。当局の言うことを拒絶し抗議したからです。江沢民訴訟のためにアプローチされました。どこに行っても扉が閉ざされましたが、最後にこの三人が私のビデオを撮りました。私の両親は70歳代で白髪でした。私は骨折していました。そこで、国際法廷に送るためのビデオが撮られました。

100名以上が実名をあげました。刑務所、看守所についての真実を語りました。中国警察がビデオを取り去り、私たちは大量に収監されました。江沢民が権力を握っており、いかなる拷問の方法を使っても、これらの人々全てを最後の一人まで撲滅する必要があると言いました。この期間、多くが拷問死し、迫害・拷問のために多くの囚人の気が狂いました。

[身分を明かさないことについて] 2002年1月だけではありません。北京で実名と住所を語ったら、家族、職場の同僚、故郷の住民、役所にも迷惑がかかります。私のためにこれらの人々をトラブルに巻き込みたくなかったのです。

医療検査は受けました。ハンガーストライキをしました。私の血圧を測り、私が瀕死状態であることが認識されました。

地元では私の名前は知られていましたが、北京と鉄嶺では、氏名も年齢も明かしませんでした。

ほとんどの人は名前を隠します。再教育のために連行されるからです。他の人々への影響は過酷です。将来、他の人が事例を提起する機会も失われます。このような不幸は一人で背負い、他の人には背負わせたくありません。

はい [匿名の囚人グループが当局に使われる可能性があります。]
身体検査は2回とも、病院内の診療所で受けました。

[拷問、証人の裁量で表現] 過酷な扱いを受けました。他の修煉者の名前を言わせるために電気棒が当てられました。言わないと電気棒が口に入れられました。北京では木の板が使われました。幅広で、長さ70~80センチの板で顔を殴られました。ベッドに縛りつけられ、残酷な扱いを受けました。首には錠をかけた鉄輪が嵌められ、錠は鎖で床に固定されていました。錠の隙間に小さな鉄輪があり、首から床に鎖で固定されたのです。このベッドに10時間固定されました。両手には手錠がかけられ、腕を引っ張られました。足は鉄で床に固定されました。58日間、動くことができませんでした。ハンガーストライキをしたので強制給餌されました。私は犯罪者ではなく良い人間です。罪はありません。ですからハンガーストライキをしました。鼻腔から胃に管を入れられ、強制給餌されました。容器に尿と米の洗い水を入れ、唾をはきかけ、タバコの灰も入れて、このような液体を1日に2~3回給餌されました。管は入れっぱなしでした。最後に管を引き抜きました。白の管でしたが、胃の上にあった部分は黄色に、下は黒に変色していました。固定された強制給餌は58日間続きました。このために目、耳、喉の感覚をすべてやられました。私が拒絶するので、髪をひっぱり床に押しつけ給餌しました。男性の囚人を私の身体の上に乗らせて固定しました。彼らはごろつきです。

拉致されてから身体を触られました。囚人だけではなく、警官もです。あまりにもひどい迫害を受け、共産党の警官がこれほどまでにひどい人間なのだと言っていました。私はすでに高齢者です。

お礼を言わせてください。中国には人権はありません。この機会、この民衆法廷を通して、お礼を言うことしかできません。声に出せない人々に代わって声を上げていきます。これらすべての人々に代わってお礼を言わせてください。生体臓器狩りに関して、私が拘束されている間、私の別の二人の姉妹は馬三家で違法に刑期を受けました。一緒に拘束されていた学習者が、彼らが亡くなったことを私に教えてくれました。家族を心配させたくなかったので話しませんでした。あまりにも酷い扱いを受け、彼らが健康を害したことを語ってくれました。身体検査は系統的で実に丹念なものだと言っていました。